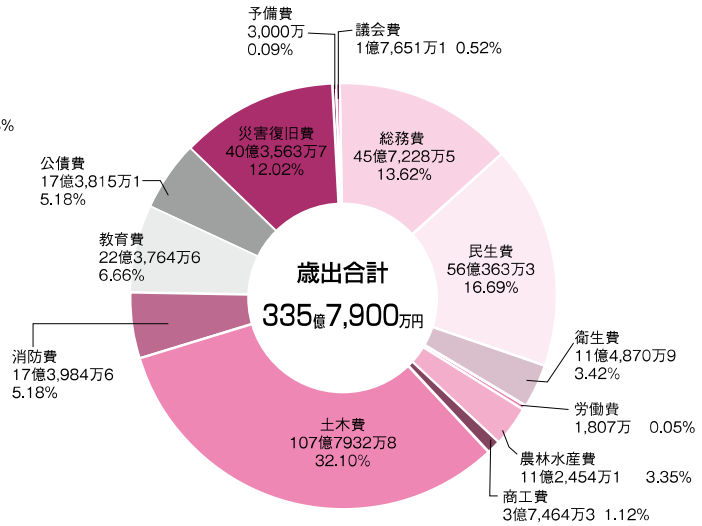
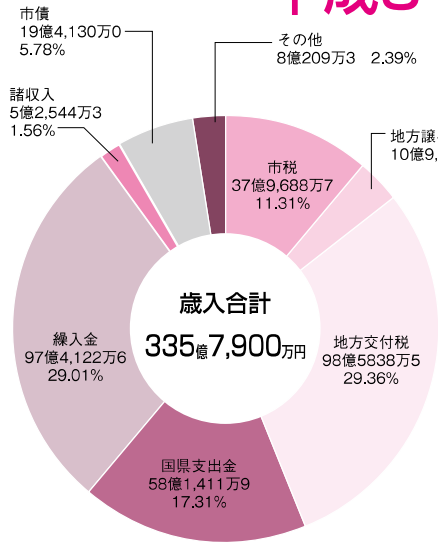


平成31年度一般会計収支状況 (単位:千円)



3

財務委員長報告、採決(3月8日)

予算審査 財務常任委員長報告 原案可決すべきもの

今回の予算審査は、一般会計ほか国民健康保険、下水道、震災関連事業など7つの特別会計について行いました。予算総額は別掲のとおりですが、復興の進捗、適正な予算の配分であるかの議論の結果、14項目の「特に留意すべき事業案件の記録」を残し原案の通り全て可決となりました。

市当局は「特に留意すべき事業案件の記録」について議会を通じた市民の声であると捉え、今後の行財政運営に当たっていただきたいと思っております。



▲審査結果を報告する熱海重徳委員長

財務常任委員長が本会議上で、委員会の審査結果を報告しました。その後、議員全員で当初予算を可決すべきか否かの採決を行いました。議員は同委員長の報告等を参考にしながら当初予算の可否を判断しました。

2

財務常任委員会、分科会による審査(2月25日～3月6日)

財務常任委員会分科会審査

本年度の予算は、平成31年度の事業について、復興完結に向けた、雨水排水工事などのハード事業のほか、本市の将来を見据えた「地方創生」の推進のため、多くの新事業が加わったことが前年度比約72億円の増額となりました。復興期間10年まで残り2年、今回も300件余りの質疑が出され活発な議論が展開されました。財務常任委員会では、「総務」、「民生教育」、「産業建設」の3分科会を設置し、専門的な見地から集中審査を行いました。財務常任委員会への付託から分科会審査、予算事業に関わる9カ所の現場調査を経て6日間の日程で精力的に審査をし、財務常任委員長が本会議で報告しました。内容の主なものはSDGs、定住化などの地方創生事業、教育事業、観光事業、下水、道路などの社会資本整備等々の審査を行いました。結果は財務常任委員長報告の通りです。



▲各分科会の審査報告をする、(上から順に)総務分科会正・副委員長、民生教育分科会正・副委員長、産業建設分科会正・副委員長

財務常任委員会は議長を除く議員16名で構成されています。当初予算は規模が大きいので、同委員会を3つのグループ(分科会)に分け、審査をしました。審査終了後、各分科会が報告を行い、委員会として予算を認めるべきか否かの結論を出しました。